

乙 第 号

上條 哲 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

報告番号	乙第	号	氏名	上條 哲
論文審査担当者	委員長		教授	奥地 一夫
	委員		准教授	朴木 寛弥
	委員		教授	田中 康仁
	(指導教員)			

主論文

Comparison of compressive forces caused by various cannulated cancellous screws used in arthroscopic ankle arthrodesis

(和訳) 鏡視下足関節固定術で使用される中空海綿骨螺子による圧着圧の比較

Satoshi Kamiyo, Tsukasa Kumai, Shogo Tanaka, Tsuyoshi Mano,

Yasuhito Tanaka

Journal of Orthopaedic Surgery and Research

12.1:7

Published: 17 January 2017

論文審査の要旨

末期変形性足関節症に対する鏡視下足関節固定術では、骨螺子による内固定が行われることが一般的であり、この際の初期固定性は術後成績を左右する重要な要素である。そこで申請者は、新規に開発した装置で圧着圧を測定することで螺子刺入時の圧変化を定量化し、更に、生体への応用が可能か検討するため屍体足関節に対しても同様の圧を測定し、模擬骨での結果との比較を行った。

小型圧力センサーと模擬骨で構成された装置及び屍体足関節を用いて、3種類の中空海綿骨螺子に関して、刺入時の骨片間の圧変化を測定した。回転角に対する刺入圧の関係を示すグラフは、それぞれ特徴的な階段状の形状を示した。また、圧上昇の傾きや最大圧に達した後の圧減衰を解析することで、それぞれの螺子の異なった特性を定量化することが可能となった。

螺子による接合骨間の圧着力に関して、これまで詳細な検討はされておらず、術者の主観的な経験から螺子の圧変化特性を知り得るのみであった。しかし、今回の研究で螺子の特性を客観的かつ定量的に知ることができ、予め目的に合わせた螺子の選択が可能となり、より効果的に足関節固定術を行うことができると考えられた。

今回の研究は変形性足関節症の治療の発展につながる有意義な研究であると評価され、博士（医学）の学位に値すると考える。

参 考 論 文

1. Advanced Surgical Skills 手術のコツとピットフォール 足 鏡視下足関節
固定術.

上條哲

整形外科 surgical technique: 手術が見える・わかる専門誌, 6(6),
680-687. 2016

2. 足関節鏡手術

上條哲、熊井司

オペナーシング(写真とイラストで手術・解剖・疾患すべてがわかる!)
整形外科手術 器械出し・

外回り完全マニュアル「下肢編」20 術式)一(下腿~ 足の手術), 26,
206-215. 2011

3. 外反母趾に対する手術と看護

上條哲、田中康仁

見てまなぶ 整形外科看護 スタンダードテキスト 下肢編 必携 整形
外科ナースー(足関節・足部).

整形外科看護, 15, 255-260. 2010

4. 母趾指種子骨障害の診断と治療.

上條哲、田中康仁

MB Orthop, 23, 15-22. 2010

5. 関節鏡視下手術を行った石灰沈着性肩腱板炎の3例.

神平雅司、久津間智允、土屋崇、薬袋一郎、安藤秀将、上條哲、

清水政幸

肩関節, 27(2), 283-286. 2003

6. 粗鬆骨の上腕骨外科頸骨折に対するポララス髓内釘の使用経験.

安藤秀将、神平雅司、久津間智允、薬袋一郎、上條哲、清水政幸
肩関節, 27(3), 459-462. 2003

7. 外傷後鎖骨遠位端骨融解症の3例.

上條哲、神平雅司、久津間智允、薬袋一郎、安藤秀将、関博
肩関節, 27(3), 463-467. 2003

8. 上腕骨近位端骨折(3 part 外科頸・大結節骨折)に対する Ender 法の経験.

安田岳、久津間智允、神平雅司、土屋崇、薬袋一郎、唐沢善幸、
上條哲
骨折, 24(2), 487-489. 2002

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに整形外科学の進歩に
寄与するところが大きいと認める。

平成 29 年 6 月 13 日

学位審査委員長

救急病態制御医学

教授 奥地 一夫

学位審査委員

運動器再建医学

准教授 朴木 寛弥

学位審査委員（指導教員）

運動器再建医学

教授 田中 康仁